

## 庭の昆虫雑文

森口 紀

庭の片隅にゲージ(昆虫の飼育小屋2.0m×3.7m・高さ2.3m)を造っています。

この小屋は、昆虫をできる限り自然に近い状態で観察するためのもので、私の長年の夢でもありました。構造は既製品のアルミ温室に屋根部分だけステンレス金網に張り替えた簡単なもので、窓の半分を網戸にすることにより外部とほぼ同じ環境を保てるように工夫しています。

内部には、吸蜜できる植物(バタフライブッシュ)や食草(クヌギ、エノキ、ヒメカンアオイなど)を植え、ゲージの中を蝶が飛び回り、甲虫が這い回るのを楽しみにしていました。

ゲージの完成を待って、早速モンシロチョウやアゲハチョウを放してみました。ゲージのなかを飛ぶ蝶の行動をみて、唖然としてしまいました。

吸蜜する草花を植えているにもかかわらず、蝶たちは屋根に張った金網に向かって突進するばかりで、一向に空間を優雅に飛び回る様子はありませんでした。

後でわかったことですが、ゲージのなかの空間は蝶たちにとって暗すぎたのです。どんなに日当たりがよくても、ガラスや金網を通して差し込む日差しは蝶たちにとっては日陰の環境になるのでしょう。

また5月になるとエノキワタアブラムシが発生し始めますが、庭に地植えしているエノキには僅かにしか付かないのに比べ、ゲージの中は新緑の葉が真っ白になるほどアブラムシが発生します。ゲージが蝶の逃亡を防いでいるのと同時に、アブラムシの天敵が侵入するのを妨げ、自然のバランスが崩れた結果アブラムシが異常発生しているのです。

そんな思い外れもありましたが、今までにテングチョウ、ゴマダラチョウ、オオムラサキ、ギフ

チョウ、ツマグロヒョウモン、カブトムシなどを飼育しています。

まだ、詳しい記録やデーターを取るまでに至りませんが、それでも今までに目にしたこともない種々な蝶たちの生態を観察することが出来ました。

テングチョウの幼虫が糸をはきながら落下し、途中から上手に糸をたくりながら元の枝にたどり着く様子や、オオムラサキが前蛹から蛹になりやがて羽化するまでの変態の様子などを目の当たりにし感激しています。

今、ツマグロヒョウモンについて観察を続けています。昨年10月に採卵し21匹の幼虫をゲージに放しましたが、この冬に12匹の蛹化を確認し、うち1匹は1月3日に羽化し、3月には終齢幼虫1匹を確認しています。

この冬は例年にない暖冬でしたが、文献では若齢幼虫で越冬するといわれていただけに、越冬した蛹が無事羽化するか否か、また終齢幼虫が無事羽化するまで育つか注意深く観察を続けたいと考えています。

(MORIGUCHI TADASHI)

神戸市西区伊川谷町有瀬77-1)

